

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500155		
法人名	株式会社 まきば		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホームさくらの園2号館		
所在地	宮崎県小林市細野4173番地2		
自己評価作成日	令和2年10月20日	評価結果市町村受理日	令和2年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action\\_kouhyou\\_pref\\_search\\_list\\_list=true](https://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和2年11月18日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者ひとりひとりのペースに合わせて、安全で安心できる環境づくりと穏やかに過ごせる生活の支援、また、ご家族・地域とのつながりを大切にしながら、社会との関わりが継続出来るように支援しています。  
小林では、なじみであるまきばの桜並木沿いに位置し、桜や彼岸花など自然豊かな環境の中にあります。近隣には住宅、保育園、小・中学校、駐在所、郵便局、地域の消防団の詰所等あり、地域交流が図れる要素がたくさんあります。また、併設のグループホームや小規模多機能型居宅事業所があり、常日頃から行き来したり、催しの行事を合同で行うことで幅広くつながりが持てます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度、全職員で理念の見直しを行い、管理者、職員は日々のケアで実践に取り組んでいる。利用者の生活歴の見直しなども行い、コミュニケーションの幅を広げ介護計画に生かすなど利用者のことを考えたケアに努めている。利用者が出来ることの継続のために工夫し、職員は寄り添うケアに日々努めている。感染症対策で、地域との交流も難しい中、敷地内の散歩や玄関先の外気浴、併設施設のグループホームや小規模多機能型居宅事業所との交流を通して利用者が穏やかに過ごせるよう取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員から、目標とする介護の意見を聞きまとめ、当事業所の特色でもある「さくら」をモチーフに本年度より新たな理念を掲げ掲示し、毎朝の申し送り時に唱和し再確認を行い支援へと繋げている。	本年度全職員で事業所のイメージである「さくら」を文言の中に取り入れ、新たな理念を作成し実践に繋げているが、ホームとしての地域密着型の意義が取り入れられているとは言い難い。	地域密着型のホームとしての意義を取り入れた理念の再考やホーム独自の目標を掲げ、実践に繋げることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩を通して、挨拶や会話ができるような環境づくりを行っている。また、近隣の方や消防団の方の防災訓練への参加で交流できるようにしている。	ホーム周囲の散歩や防災訓練時に消防団に参加してもらうなど、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員である区長・民生委員・近隣の方へ、認知症の方の状況と支援の報告を行い、理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通して、入所者の生活状況やサービスの報告を行い、意見や助言を頂いている。地区の行事・市の情勢・質問等をお聞きしたりしている。	運営推進会議ではホームの報告や、参加者との意見交換を行い、助言をもらうなどなど、サービスの向上に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険申請等の書類提出時や、運営について不明な点がある場合は、その都度、長寿介護課の担当へ電話でお聞きしたり、直接訪問して尋ねたりして連携を図っている。	市町村担当者とは相談しやすい関係づくりに努めている。生活保護者の契約書について助言をもらうなど、協力関係づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束適正化委員会でも明確にし、また、職員研修や日々の申し送りで身体拘束について説明を行い、知識の習得、認識を高めている。	毎月定期的に研修を行っている。朝の申し送りでも身体拘束や言葉遣いについて説明を行い、身体拘束をしないケアについて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われないように、所内研修で勉強会を行い、職員教育に努めている。言葉使いについても、特に抑制することなく、どのように伝えたらよいのか意識するよう心掛けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行っている。該当の方の相談があれば、成年後見センターへの窓口として対応するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は管理者が、本人・ご家族へ十分な説明を行い、不安な事やわからないことがあるとお聞きし理解していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会時のコミュニケーションや、担当者会議で意向をお聞きし、支援へ反映するようにしている。職員間では、ご家族の意向の共有を図っている。	面会時や担当者会議時に利用者、家族の意見を聞いている。急変した夫とのリモートでの面会を実現するなど家族等の意見を反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員研修で、職員の意見や考えを伝える場を設けている。また、毎日の終礼では、その日の課題点・気づき・検討事項等を出し合い改善や共有に努めている。	代表者、管理者は職員が意見を言える場を設け、意見を言いやすい関係づくりに努めている。入浴の段取り方法についての意見も検討し、職員の意見を反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況把握をし、環境に合わせた勤務体制の配慮を行っている。また、資格取得に向けたシフトの調整も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な時は個人面談を行っている。定期的な所内研修で、グループワークや実例での演習等も行っている。資格取得講習の案内や申し込みの手続きも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡会に加入している。また、ネットワークグループのほたるネット研修への案内を呼びかけたりしているが、新型コロナウイルス感染予防の為休止中。所内研修でスキルアップに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面会で相談に応じ、また、見学を通して施設の雰囲気を見て頂き、本人の不安や要望を把握し継続出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同じようにご家族との面会で相談に応じ、見学もしていただき、抱えている悩みやご意向をお聞きし把握できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報収集や、本人・ご家族との面会時に一番必要としている事をお聞きし支援へつなげていけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでしてこられた事、また出来る事を確認しながら、生活の中で役割を持って頂き、関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にはいつでも面会できる環境であり、病院受診や外出等の協力もお願いしているが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防の為、制限があり、常にご家族へは状況報告をしている。また、ご家族からも電話連絡があり本人と話されたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	続けて行かれていた墓参りの外出や、年末年始自宅で過ごされる事等、ご家族親戚の方との関係が途切れないようにご家族の協力を得ている。	お墓参りや行きつけの理美容の利用など家族の協力の下行っている。手紙が届いたら電話連絡をするなど関係継続の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者の個々の性格や状態を把握し、自席の配慮を行っている。また、毎日体操や歌などのレクレーション時に、皆で丸くなり共有する時間も設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・入所先へ伺ったり、相談員の方より情報をいただき、またご家族より相談があると対応するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴・ADL等の分析を行い、またしっかり本人へ意向をお聞きしニーズを考え、職員の体制で出来るかぎり添う支援へ取り組んでいる。	生活歴の再確認を行い、利用者一人ひとりの意向を再確認し、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、今までの環境や暮らし・生活歴の情報を収集し、それまでと変わらない生活が出来ると環境づくりに努めている。また、その後のコミュニケーションより新たな情報収集があると、職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常日頃から健康状態・心身状態の観察に努めている。日々の生活の中では、その方の出来る事・得意な事・好きな事を踏まえ、散歩・塗り絵・洗濯たたみ・食事準備等の継続してして頂くよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス支援の評価を担当職員が行い、アセスメント・モニタリングへつなげている。また、ご家族へ本人の状態を報告しご意向をお聞きし、計画書を作成している。また、日頃の送りや職員研修時の意見も反映させている。	担当制で毎月モニタリングを行い、家族や利用者の意見を聞き、計画作成担当者とし合いを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス支援項目を、○△×で記録し、職員で評価も行っている。日々は個人記録へ記載し、全員が見れるようにしている。また、朝夕の申し送りや終礼等で気づきや課題点の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面では協力医による往診・かかりつけ医による外来受診や往診対応。自立支援に向けて、歩行器・ベットの介助パー等の福祉用具の検討、歯の状態によっては、訪問歯科を依頼し即対応できるような連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎回おなじみの出張美容サービスの利用や認知症カフェの「オレンジカフェ」への参加をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医の継続でご家族同行の受診協力をお願いしたり、また、病院受診時の移動が困難な方には、協力医の往診が月2回あり、ご家族の立会いの案内をし情報の共有に努めている。	協力医の月2回の往診があり適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で少しでも変化があると、看護師へ伝え、必要であれば医療機関へ連絡し指示をもらい統一した対応を取っている。受診時は、看護師が同行している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院後は、情報提供書をもとに、また、病棟看護師・地域連携室担当者の方と連絡を取り合いADLや病状の状態把握をし、受け入れられる状況であれば早期に受け入れる体制づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時「緊急時・重度化における指針」と対応についての説明を行っている。また、状況に応じご家族と話し合うようにしている。	契約時に説明を行っている。かかりつけ医、協力医との協力関係づくりに努めている。また、家族とは随時話し合いを持ち、状況に応じた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、全職員へ周知している。また、急変や事故発生時は状況を把握し、かかりつけ医・協力医へ連絡し指示をもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、地元の消防団や近隣の方の参加もお願いしている。また、自動通報装置には、近隣の運営推進委員・職員の登録をしており、すぐ駆けつける体制を備えている。	年2回の消防訓練を行っている。近隣住民に声掛けを行い、消防団の参加もある。夜間通報訓練や、備蓄を行い、災害対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに寄り添いながら、人としてのプライドが損なわれないような言葉使いや声掛けに努めています。	朝礼やスタッフ研修にて言葉遣いなどの配慮について伝えている。研修会ではスピーチロックについて行い、幼児言葉を使わないなど一人ひとりの尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、コミュニケーションの中から本人の思いや希望を確認をし、寄り添うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の声に耳を傾け、どのように過ごされたいのか察知・確認しながら、希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を選んでいただき、洗面台では、自分の化粧水や乳液を準備して使われている。また、毎回なじみの出張美容師さんへ、希望の髪形を伝えられたりされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	園庭の菜園で取れた野菜を洗ったり、また、台ふきや手の消毒の手伝いをして下さる。食事が終わると、下膳して下さり、自分できない人の分の下膳も手伝って下さる。	献立は管理栄養士が作成した物を参考に立てられている。利用者は下膳やお盆拭きなどできることを手伝い、菜園で収穫した野菜を調理するなど、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、主食の量も決めて提供している。また、食事・水分の一日の摂取量が確認できるように記録している。水分も一日の摂取量が少ないと工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は自分で口腔ケアしていただいている。また、必要に応じて訪問歯科依頼を行い、口腔状態の把握とケアの指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表記録表へ表示し、失敗が少なくなるように声掛けや誘導を行っている。また、自立されている方には、排便があった時は教えてくださるように声掛けを行っている。	排せつ記録表を利用し時間誘導を行い日中はトイレでの排せつを支援している。尿意、便意が無かった利用者も失敗が少なくなるなど排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、繊維物の多い食事の提供と一日の水分量の記録と把握に心がけている。必要に応じては下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	状況に応じて、ゆっくり時間をかける方・気を合うもの同士で入りたい人と対応している。また、入浴を拒む人は、無理強いすることなく日を改める等している。	希望があればいつでも入れるが、午前中に週3回のペースで行われている。入浴を拒む場合は声掛けの工夫などを行い、一人ひとりにあった入浴を楽しむ支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休みたい人・居室で過ごされたい人・ホールでテレビを見られる人・朝ゆっくり起きられたい人それぞれ対応している。また、室温にもしっかり対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬管理を行っている。また、個人の記録綴りには、お薬説明書を入れており、いつでも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操や歌等が出来る時間や、塗り絵・新聞読み・工作づくり・散歩等気分転換出来ることを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの花見や買い物、また園庭の散歩や菜園づくり、日向ぼっこなどで楽しんでいるようにしている。	日常的には敷地内を散歩したり玄関先の椅子で外気浴を行ったり、洗濯物を干したりしている。事務所に飴を買いに来るよう工夫をしたりと日常的な外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方がお小遣いを持っていらっしゃる、小さい支払いは自分でしっかり払われる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、いつでも電話出来き直接話せるようにしている。また、手紙が届いたときは、すぐお渡しするようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花があると、玄関・ホール等に飾り四季を感じる事が出来るようにしている。自前のカレンダーを貼ったり、工作を飾ったりしている。	共用空間は天井も高く陽当たりがよい空間となっている。温度や湿度に配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファでは、だれでも座れるようになっており、気の合う方と話されたり、音楽を聴いたり、テレビを見たり、横になったりされる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を飾ったり、テレビを設置し視聴されたり、いつも使用していた布団を持参されたりと居心地が良いようにしている。	家族の写真を飾ったり、使い慣れた布団を持参するなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は、手すりが設置され使用し安全に歩行でき、また、車いす同士もすれ違えるような広さがあり、トイレは大きい文字で表示しわかりやすくしている。		